

「2017 筑波銀行ビジネス交流商談会」

報告レポート

～開催の目的～

地域経済や地域社会の面的な復興・振興を支援し、地方創生、地域活性化に資するため、業種を越えた連携や交流の促進を図り、新たな商流の創出に役立てるものです。また、「地域経済活性化に関する広域連携協定」に基づき、「食」「ものづくり」「ベンチャー」「海外」「観光・サービス」の販路開拓や行政機関に地域資源の発信の場を東和銀行と栃木銀行との連携により提供することで、地域の発展に貢献して参ります。

～当日の様子～

当日は、食品関連企業、モノづくり企業、行政機関、高校、大学など計 242 のブースが出展、また、入場者は、県内企業など約 2,600 人に上り、会場は賑わいに包まれました。

～展示会～

北関東自動車道の全線開通を契機に高まるビジネスニーズに対応するため、展示会では北関東の三県を中心とする企業が自社の技術や製品を、自治体は観光名所や名産品などを PR しました。

また、今年は高校や大学の展示も行われ、高校生や大学生が学校での取り組み内容を来場者へ一生懸命に説明する姿が見られました。

～商談会～

展示会とは別に、展示企業様とバイヤーが具体的な商談を行う「事前予約商談」を開催し、約 900 件の商談が行われました。

～同時開催～

ビジネス交流商談会 セミナー

本交流商談会では、午前から午後にかけて、3つのセミナーを開催しました。内容は、「グローバル・ビジネスハブとしての香港」「なぜ海外市場なのか」「食と農で地域を元気に」と題し、各界から最前線で活躍する講師を迎え、販路拡大などに向けたヒントを教えてくださいました。

今年は、これまでは別途開催していた「知財活用アイデア大会」を本商談会と同時に開催しました。本大会では、大学生が大企業等の開放特許を活用して考案した新商品アイデアのプレゼンテーションを行いました。最優秀賞は、情報を印刷画像に埋め込む技術を活用したアプリの提案を行った茨城キリスト教大学のチームが受賞しました。

～同時開催～

平成 29 年度
知財活用
アイデア大会



オープニングセレモニー



展示会場



参加者様の声をヒアリング



展示ブース



知財活用アイデア大会



知財活用アイデア大会で
優秀な成績を取めた学生

～ご参加いただいた皆様から～

「毎年、交流商談会に出展させていただいているため、顔見知りも増え、商談のお話しも大変スムーズに行えます」(「食」ブース出展県内企業様)

「北関東の中で茨城県だけ販路開拓が進んでいないため、この機会を有効に活用して商品をアピールし、筑波銀行の力を借りて販路を拡大したいと考えています」(「食」ブース出展県外企業様)

「普段はなかなか知り合えない業種の方々とお会いすることができ、ビジネスチャンスが広がりました」(「ベンチャー」ブース出展県内企業様)

「本市の PR ブースに並べた商品は、隣の会場で行われている展示会の出展企業の商品です。私たち行政が、企業と企業、企業とお客様の「橋渡し」になれば良いと考えています」(「行政支援教育機関」ブース出展自治体様)

「このような場所で、学生が自分たちの取り組みを説明する機会を得ることは、良い勉強になると感じています」(「行政支援教育機関」ブース出展高校様)



地域振興支援プロジェクト

あゆみ

平成 29 年 10 月 17 日 (火) 開催

文責：筑波総研(株) 富山かなえ